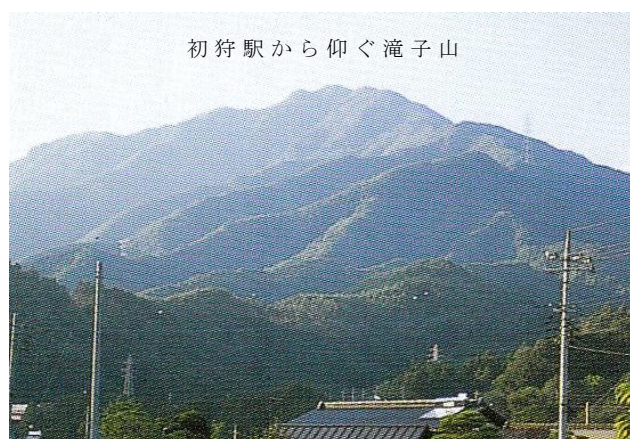


作者プロフィール

柚木 文夫氏 千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成2年退官 1958年防衛大学卒
元防大山岳部監督 現自衛隊山岳連盟会長

滝子山－冬枯れを一人行く－



初狩駅から仰ぐ滝子山

中央線の初狩駅付近から見て北に聳える堂々たる山容の山が、大菩薩連嶺最南端の山・滝子山（1610 ㍎）である。12月中旬、その真っ正面を直路頂上に突き上げる寂悄尾根を登った。

移動性高気圧が日本の真上に居座った晴天の9時40分、笹子駅下車。下車した登山客が5～6人見えたが、滝子山に向かうのは私だけらしい。国道20号を初狩方向に進み、JR下のガードを潜り、10時20分、桜公園に到着し、ここで身支度を整えた。

10時半、大鹿沢を左岸に渡り、寂悄庵の横手から杉林の中、いきなり胸を突くような急登が始まる。20分程で送電線下に出て、いくらか傾斜も弱まり一息入れた。杉林が雑木に変わり、冬枯れの山はあくまでも明るい。



岩尾根の登攀路

間もなく林道を横断し、更に一登りして寂悄尾根の主尾根に出た。逃げようもない狭いヤセ尾根リッジの直登である。腰を下ろす場所

もない。ただただ登るだけ。振り返ると木の間越しの富士山がやたらと大きかった。

12時半頃から尾根は岩場の連続になる。所々にクサリが垂らされ、赤ペンキのルート標示もなされてはいるが、なかなか手強い登攀である。慎重に手掛かり足掛かりを選び、確実な三点確保を自問自答しながら登る。時々ちょっとした岩棚を見つけて一休み。そんな時、岩棚を埋め尽くさんばかりに広がるイワカガミが、ある場所ではチョコ



イワカガミ

レート色、またある場所では銀青色に光り輝き、疲れを忘れさせてくれた。

13時20分頃、P3の南面を巻いて主稜線の浜立尾根に到達し、やっと手足を総動員しての岩場登攀が終了した。後は尾根道に沿って、P2、P1とコブを



P2から望む山頂

乗り越し、滝子山頂上に到着したのが13時40分。誰一人いない

山頂で、富士山に向かい思わず万歳を唱えた自分が、我ながら可笑しかった。

大休止の後は、一般ルートの南東尾根を下山した。初狩駅到着は、日もとっぷり暮れた17時となった。



滝子山山頂からの富士山